

調理実習講師 木村万紀子氏の感想

<竹下先生のご講演アンケート結果より>

子供が料理をしたいというピークは5歳。

子育て世代の主婦の多くが、子供が料理をしたいといっても、「やらせるのが面倒」「危ない」と言って台所から遠ざけてしまいます。

小学校になると、「料理する時間があったら、勉強しなさい」という雰囲気になってきます。

「子供に料理をさせたら、どんな風に育つのか」ということを、子育て世代の多くが、イメージできないからだと思います。

勉強をして、いい大学に入って、いい企業に勤めれば、お金の苦労しないということがわかっているから、勉強させます。

では、料理は？と言われると、皆答えを持っていないのだと思います。

講演会の参加者の方は「料理をさせてあげたらいいんだろうな」と漠然と感じているから、この日、竹下先生の講演会に足を運ばれたはずです。

だからこそ、具体的に、料理をしてきた子供たちがどんな風に成長したかを見せてくれる（話だけでなく、画像があるからこそ、リアリティがあり、イメージできる）この講演会が、母親たちの心にぐっとくるのだと思います。

竹下先生の話聞いて、

「自分に余裕がないため、子供に料理をさせないままで過ごしていたが、この話を聞いて子供の大人になる力を自分が奪っていたのだと痛感した」

「子供の生きる力をつけてあげられる大人になりたいと思った。」

「人は置かれた環境に適応するという言葉が心に刺さった。」と感じたという声が多かったと思います。

竹下先生の話は、「今日のお話しはいい話だったね」では終わりません。

いつもの自分を振り返ってみると「自分が子供に自立の環境を整えてあげられていないと感じて『はっとさせられた』」という「変わらなくては！」という気付きにつながるのです。

だから、この講演を聴いた後、各家庭にじわじわとこの話が染み入って、親が変わり、子供が変わるということが起こるのだと思います。

食育は、小学校で子供だけに教えるだけでは十分ではなく、それが家庭で実践されるためには、母親がなぜ食育なのかというところが腑に落ちている必要があるのだと思います。

す。

そして、母親たちの中には、そういう情報を知りたい人がいっぱいいる、しかし知るすべがない人たちがいっぱいいる。

だからこそ、この日は会場が大きな感動の渦になったのだと思います。

母親たちは毎日の生活の中で、子供が産まれてきた瞬間の喜びいっぱい、あなたはただ居てくれるだけでいいんだよという気持ちから、成長に伴って、子供に望むことが増えていきます（勉強しなさい！と怒ったり）。

しかし、根っこの部分で、何を大切にすべきなのか、子供をまるごと受け容れて愛してあげていますかということも、食育と一緒に伝えてくれる話です。

自分の子供だと主観的になりやすい母親の育児が、一人の人間を育てる大事業に感じさせてくれる。愛があるからこそ、皆が響くのだと思います。

この話を聴いて、早く家に帰って子供を抱きしめたくなったという声も聴きました。

子供は尊いかけがえのない存在。

当たり前なのが薄れてきた毎日に、温かいものが流れて入ってきて自分を見つめ直す機会になった、そんな講演会だったと思います。

<調理実習アンケート結果より>

普段子供だけで料理を作ることはほとんどない（82%）だったのが、調理実習後一週間で、48%が子供一人で料理する機会を与えたというのは、母親が竹下先生の講演を聞いたからで、ただ子供が料理を習ってきただけではここまで親は積極的にその機会を与えなかったと思います。

また、子供が自分で作ったお弁当を、母親にプレゼントするというのは、家庭科の授業では味わえない「自分が作った料理で、お母さんが喜んでくれるというのを、考えながら心を込めて料理を作る。そして、自分の料理を食べて、お母さんが感動してくれた。」この体験ができるのがすごくいいと思っています。

「いつも自分に料理を作ってくれるお母さんの気持ちがわかった。」と感じる子供も多く、たった一回の経験が、毎日の暮らしの見方を変え、その後の生き方に影響を与えることになったであろうと感じます。

親に感謝しなさいと言われても、小学生の子供たちはピンときませんし、生まれてから親にしてもらうことが当たり前。それがどういうことなのか考えるきっかけになったらうれしいです。

この日はお母さんに食べてもらっただけなので、お父さんにも作ってあげたいという気

持ちや、その後、家族に作ってあげたらとても喜んでくれてうれしかったという感情は、自己肯定感、自尊感情を高めることにつながると思います。日本の小学生はこれらがとても低いと言われていますが、大人の領域と感じていた料理を自分一人でできたことや、周りの人を自分が作った料理で喜ばせることができたというのは、大きな自信になったことは間違いないと思います。

<同時開催に関して>

今回は、親が竹下先生の講演を聞き、子供たちがその講演に出てきている弁当の日と同様に料理を作ることができたという同時開催によって、その後、家庭で子供が料理を作ることがすぐに実践されたと思います。

「いい話だった」で終わらない、家族の在り方が変わるくらいの経験になったと思います。